

「全日本花いっぱい亀岡大会」ロゴマーク デザインコンセプト・作成意図

【全体コンセプト】

本ロゴマークは、今年10月に京都府亀岡市で開催される「全日本花いっぱい亀岡大会」のシンボルとして制作されました。全国規模の大会にふさわしい「格式高さ」と「公式感（オフィシャル感）」を意識しながら、亀岡の歴史・自然、そして花が持つ「優しさ」と「生命力」を表現しています。

1. シンボルマーク（図形部）：無限に広がる花々

上部の図形は、洗練された幾何学的な構成によって「花」のモチーフを表現しています。

「花いっぱい」の視覚化：この意匠は、どの部分を切り取っても美しい花の形が連続して現れる構造になっています。一輪の花にとどまらず、まちや人の心にたくさんの花が咲き誇り、無限に広がっていく「花いっぱい運動」の本質を表現しました。

格式高さとオフィシャル感：全日本大会の公式ロゴとして相応しい品格を持たせるため、シンメトリー（左右対称）を意識した日本の伝統的な家紋や文様のような美しさを取り入れ、現代的かつ格式高い印象に仕上げています。

2. カラーリング（色彩）：亀岡の歴史と自然、そして市民の思い

配色には、開催地である「亀岡市」ならではのストーリーと、大会への思いを込めています。

水色と紫（明智光秀カラーと市の草花）：メインカラーの水色と紫は、亀岡の礎を築いた戦国武将・明智光秀の桔梗紋に由来する「明智光秀カラー」です。また、紫は亀岡市が指定する市の草花「桔梗（キキョウ）」そのものの色でもあり、地域が持つ歴史的ロマンと豊かな自然を表現しています。

赤（アクセントカラー）：全体の調和の中に差し色として配置された「赤」は、大会の成功へと向かう「情熱」や、全国から集う人々の「活力」、そして力強く咲く花の「生命力」を象徴し、デザイン全体に美しい躍動感を与えています。

3. ログタイプ（文字部）：花のもたらす優しさと遊び心

「HANA×IPPAI」および「全日本花いっぱい亀岡大会」の文字デザインにも、細部へのこだわりを反映させています。

角張りと丸みの調和：アルファベット表記では、公式感を担保する角張ったスタイリッシュな書体をベースにしながらも、文字の一部にあえて丸みを持たせることで、花が持つ「優しさ」や「親しみやすさ」を表現しました。

文字に潜む花びらのモチーフ：「H」の左下および「i」のドット部分には、シンボルマークと連動した「花びら」の形状を配置しました。また、「HANA」と「IPPAI」を繋ぐクロス（×）も小さな4枚の花びらで形作られており、ディテールからも花のエッセンスが伝わるよう工夫しています。

桔梗の紫による統一感：文字のカラーにも桔梗をイメージした気品ある紫を採用し、マークとの一体感を高めるとともに、ロゴ全体をスマートに引き締めています。